

vol. 280

Summer 2025

お茶の水女子大学の今を伝える広報誌

Ochadai GAZETTE

お茶大ガゼット

Contents

02 未来を描くチカラが、ここにある。 共創工学部、進化と創造の2年目へ

学科長対談

長澤 夏子 基幹研究院自然科学系 教授

宮澤 仁 基幹研究院人間科学系 教授

06 学生のアクティビティ

Ocha Summer Program

08 教員紹介

辻谷 真知子

基幹研究院人間科学系 准教授

09 卒業生紹介

笹川 真奈さん

理学部情報科学科卒業

10 附属学校園からのお知らせ

附属小学校





共創工学部、 進化と創造の2年目へ

宮澤 仁

基幹研究院
人間科学系教授
2024年度より共創工学部
文化情報工学科長
専門分野は地理情報学、
人文地理学

長澤 夏子

基幹研究院
自然科学系教授
2024年度より共創工学部
人間環境工学科長
専門分野は建築計画、
建築環境・設備

2024年に開設した共創工学部。人間環境工学科長の長澤夏子教授と文化情報工学科長の宮澤仁教授が、対話を通して2年目の抱負を語ります。

共創工学部設置の背景や コンセプト

宮澤：新しい学部ができて、2年目。毎年、新しい科目が増えたり、新しい研究テーマに取り組んだりして活気がありますね。

長澤：共創工学部ができる前の3学部の頃から、生活科学部では工学的な研究が、理学部では情報に関する研究が、そして文教育学部では人文学とデータサイエンスを合わせた研究がありました。こうした蓄積があったので、新しい学部の立ち上がりは順調だったと思います。

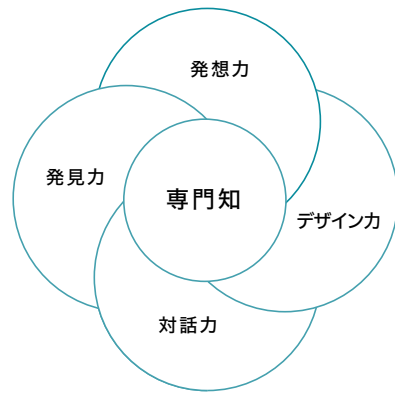
宮澤：私たちは、「共創マインドを持った工学系人材を育成する」という新しいビジョンをかかげて、これまでにないかたちの工学部をつくりました。現代社会が抱える課題は複雑で、技術やモノをつくるだけでなく、新たな意味や価値を創造していく、そのような工学を目指しています。そのためには、多様な人々と環境や社会、文化を共に創っていく——「共創」がキーワードになります。

長澤：その考え方はカリキュラムにも色濃く反映されていますね。単なる工学的な知識だけでなく、共創のための力として「共創能

力」を身につけられるカリキュラム設計になっています。学生たちもその意義を理解して、非常に意欲的に取り組んでいる様子が見られます。

宮澤：そうですね。これからが楽しみです。その「共創能力」ですが、5つの力から構成されています(図1)。まず「専門知」があります。共創工学部では、工学に限らず人文学や社会科学まで及び、文理にまたがる幅広い知識や技能を身につけます。そのうえに、社会的課題を見出す「発見力」、その解決策として新たな技術や文化を考える「発想力」、それを具体的にかたちにする「デザイン力」、それらを社会の人達と共有し、実現に向けて協働していくための「対話力」、これら4つの力をバランスよく身につけていくことが重要です。

長澤：それに加えて、共創工学部では、データを駆使して課題を発見するのに役立つデータサイエンスの手法や、課題解決のためのデザイン思考も学びます。



■図1 共創能力

何が課題なのか、どこに技術を適用したらよいのか、さらには、こんなフィールドに応用すればこれまでなかった新しいものや価値が生み出せるのではないかと、「見出す力」を養うことが重要です。

宮澤：まさにそうですね。データサイエンスとデザイン思考は、そのための道具立てですね。

データサイエンスや デザイン思考の必要性

長澤：共創工学部では、1年生からデータサイエンスが、2年生ではデザイン思考に関する

科目が必修です。共創工学に必要なスキルとして両者を体系的に学ぶことができる仕組みになっていますね。

宮澤：ええ、データサイエンスが求められる背景には、2つの側面があります。ビッグデータやAIなどのIT技術の発展という技術的な側面。もう一つは、エビデンスやデータ駆動型のアプローチが重要視されてきて、データサイエンスを扱える人材が求められているという、社会的な側面です。

長澤：現代社会ではデータサイエンスの成果がさまざまな場面で活用されていますし、文系・理系関係なく、社会人の素養としてもデータサイエンスはあげられる時代ですね。データサイエンスは日々進化している点でも、最新の仕組みを学ぶことは重要です。

宮澤：そうなんです。もちろんデータ分析は昔から行われていますが、今は分析結果から新しい価値や社会的意義を導くことまでが求められています。そのためには、分析結果を深くかつ広がりをもって洞察する力が大切になります。

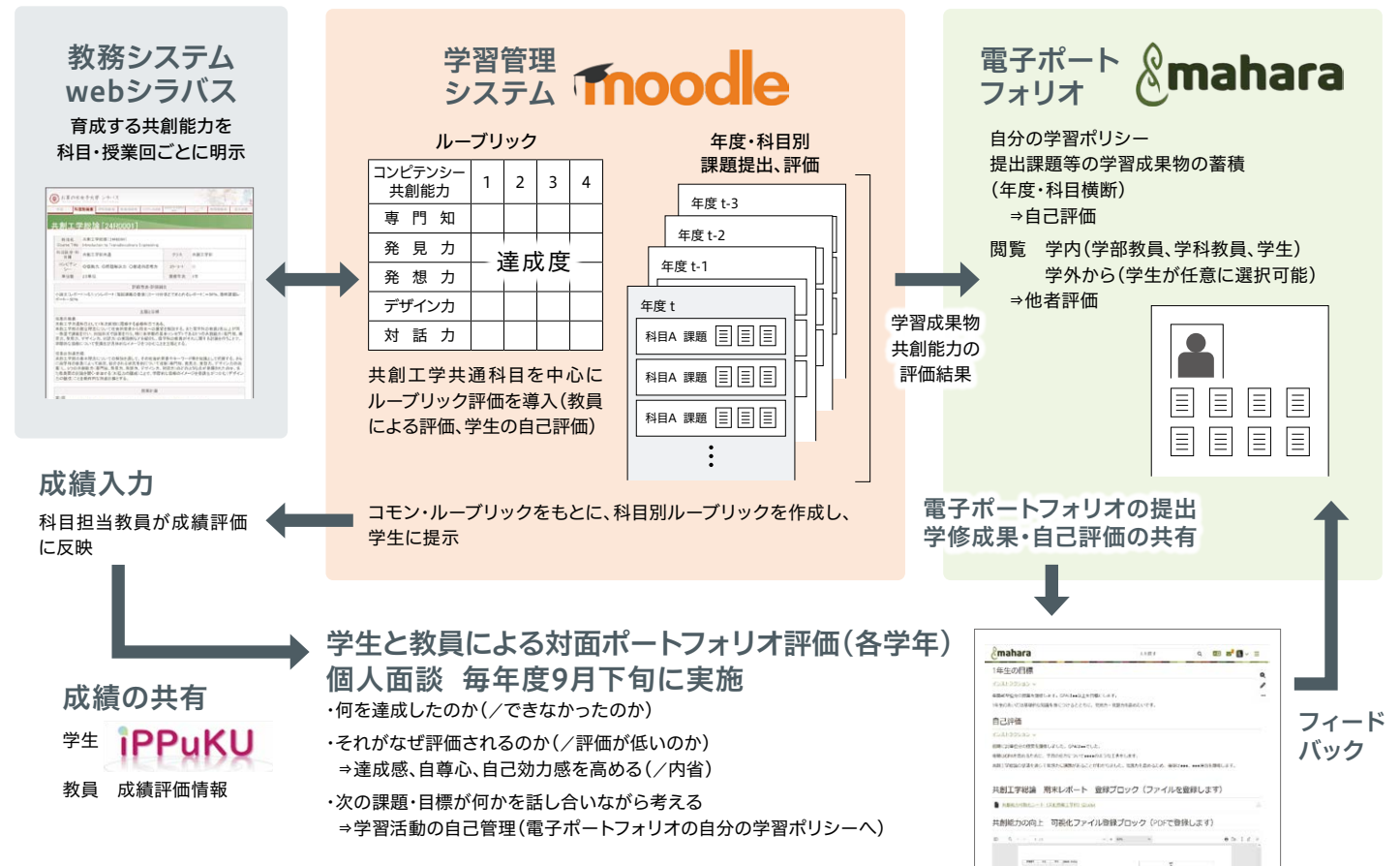
長澤：そういう意味でも、デザイン思考の重要性が増してきていますよね。特に、工学はモノづくりやコトづくりの分野なので、創造的なプロセスが欠かせません。

宮澤：まさに。デザイン思考は、共創能力の中でも、「発見力」から「対話力」まで、多くのフェーズに密接に関わると思います。

長澤：今までは「どう最適化して量産するか」という視点を中心でしたが、これからは「まだ世の中にない新しいものをどう生み出すか」がテーマになります。そのときには、一人だけで考えていくのではなく、さまざまな人の意見や発想を引き出しながら進めていくという姿勢が必要になります。そのためにデザイン思考する技術というものが、授業を通して学ぶことができます。今までなかった技術が出てきたときに、新しい状況やデータから次を見出せるような柔軟な思考を身につけていただきたいと思います。

「共創工学学修ポートフォリオ」 の活用

長澤：共創工学部のカリキュラムでは、さまざまな分野が学べます。学生によって目指すゴールが異なり、個人ごとに興味関心や将来像に合わせた学びが可能です。だからこそ、色々な科目の組み合わせなどを見つけていき、自分に合った履修計画を立てていくこと



■図2 共創工学学修ポートフォリオ概念図



がとても重要になります。学生がそうした個別の学びに自主的に取り組むことを支え、また教員が学生一人ひとりの学修をサポートできる仕組みが必要だと感じて導入したのが、「共創工学学修ポートフォリオ」です(図2)。

宮澤：ポートフォリオは、学生が受講した授業の内容や課題、評価などを記録して、学修の自己管理・自己評価につなげられるようになっています。それらの情報は、教員と共有することもできます。共創工学部では年に1回は必ず、教員と学生が個人面談を行っています。この面談でもポートフォリオを活用しており、学生が自分で立てた学習目標、そ

れに対する自己評価、そして学習成果などの情報をもとに、教員と対話し、次の学習計画と一緒に考えていくというかたちです。

長澤：学生自身が学習履歴や活動を振り返ることができるのは大切ですね。成績の良し悪しだけでなく、面談を通じて「何を学んで何を身につけたのか」「これからどんな力を高めていきたいか、高めていくべきか」といったことが見えるようになります。

宮澤：手厚すぎるサポートだと思われるかもしれませんが、それくらいが丁度よいと思っています。共創工学部はまだ新しい学部なので、学生にも不安があるかもしれませんが、だからこそ、きめ細やかに学修を支えていく体制が必要だと考えています。

こんな方に共創工学部をおすすめします

長澤：工学やデータサイエンスに関心があって、社会で活かしたい方。工学と工学以外にも好奇心がある方におすすめです。芸術など人文系に興味があり工学も学ぶ意欲がある方や、課題解決のためにデータサイエンスを学びたい方などです。

工学は社会でニーズがあり人気がある一方、これまでは女性が少ないともいわれてきました。しかし社会で活躍する人も増え、関心がある女性は多くいらっしゃると思います。技術をどこに適用するのかを考える時に、女性の視点は重要です。

宮澤：共創工学部では、従来の工学の枠にと



らわれず、いろんな視点と関心を持った学生が集まることで、新しい価値や発想が生まれると思っています。

特に文化情報工学科は、入試形態も文理を問わないものになっており、広く門戸を開いています。関心が文理にまたがる方や、文系・理系という区分に違和感をもっている方にフィットしやすいです。もちろん、文系・理系のどちらかを主軸としながらも、少し枠を拡げて学んでみたい方にも、ぴったりです。

卒業後の進路

長澤：まだ卒業生が出ていませんが、共創工学部で学べるデザイン思考やデータサイエンスの力を活かして、開発や研究、企画職、情報系といった人気の職種につくことが期待できます。

宮澤：今、企業もそういった力を求める傾向が強まっていますね。

長澤：特に人間環境工学科では建設業や不動産、産業研究所、化学系企業や官公庁、自治体も想定されます。理工系では、大学院に進学する方も多いので、お茶大では現在、大学院にも「共創工学専攻」を2026年に設置するよう申請中で、学部から大学院へ貫して共創工学を学べる環境を準備しています。

宮澤：文化情報工学科では、第2のプログラムの選択肢が幅広いこともあり、身につける技能や資格也多岐にわたります。就職先としては、開発研究職、企画職、情報、通信、コンサルティング、運輸、不動産、金融、保険、流通、サービス、新聞、放送、出版、教育、文化、官公庁など、非常に幅広い分野が想定されます。博物館のDXも進んでいるので、学芸員といった進路も十分に考えられます。

共創工学部の今後

長澤：今はまだ1期生、2期生と教員で試行錯誤していますが、将来、彼女たちが社会で花開いていくのが楽しみです。そして卒業後に、今度は大学と共創して社会の課題に取り組み、また新たな芽を育んでいただきたいです。社会と大学は繋がっている必要があるもので、それを活性化できればと思います。

宮澤：そのとおりですね。そうした繋がりを築くためにも、学生がこれから受ける企業とのコラボレーション授業をもっと充実させたいと考えています。将来的には、卒業生を授業のゲストに招いて、在学生と交流する機会がつけると素敵だなと思っています。

共創工学部の特徴的な学び

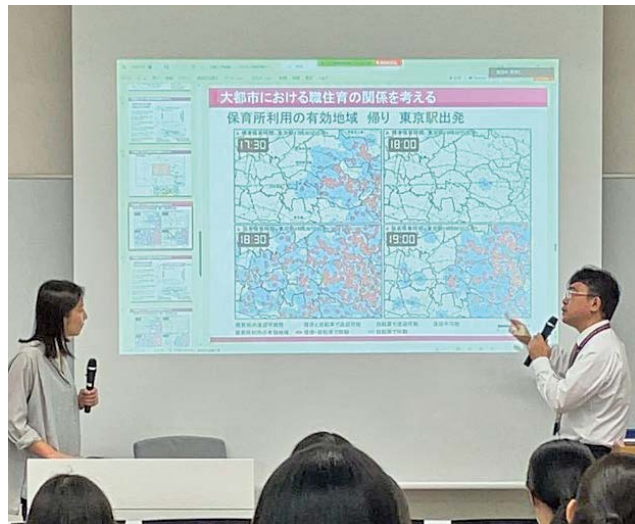
共創工学部では5つの共創能力を養うさまざまな授業を用意しています。
その中から2つの授業をご紹介します。

共創工学総論

“意見が違ってもいい” 討論を聞き、参加し、学際的な協働を学ぶ

1つのテーマに対して、人間環境工学科と文化情報工学科の教員が1名ずつ共同で担当するオムニバス形式の授業です。異なる分野の教員が多様な視点からディスカッションを展開していくのがこの授業の醍醐味！話し合い、質問をし合いながら授業の中で新たな枠組みを考えていく、その議論の輪に学生も加わります。

1つの正解を知識として覚えるのではなく、答えが決まっていな中で解決策を発見していく過程は、まさに「共創」を体現した授業です。



人間環境工学科の藤山准教授(左)と文化情報工学科の宮澤教授(右)によるディスカッション

共創デザインPBL^{※1} (LIDEE^{※2}演習)

デザイン思考の実践 問題解決型ワークショップで「共創デザイン」を習得する

企業や外部の専門家を招いて行われるワークショップ形式の授業です。学年を超えた多様な学生がチームに分かれ、社会のさまざまな問題をテーマとした演習課題に取り組む中で、アイデアを出し、意見を交換し、まとめていく技術を学びます。

2024年度はまちづくりをテーマに、池袋駅西口地区の再開発に関する演習を実施しました。未来に向かってどのような街をつくっていくのか、ディベロッパー、地権者、自治体など、まちづくりに関わるさまざまな方と対話し、実際に街を歩いて、学生の視点から問題点や課題を分析し、解決に向けた提案を行いました。

※1 PBL：Project Based Learning・課題解決型学習

※2 LIDEE：Life Innovation by Design & Engineering Education・生活に新たな価値を創造するイノベーション教育プログラム



学生による発表



工場見学のワークショップ

人間環境工学科

2つの学科での学びにより、どのような力が身につきますか？

文化情報工学科

人間環境工学科を構成する3つの工学専門領域



①矛盾する社会課題を解決に繋げる力

人間領域で扱う人々の暮らしと環境領域で扱う環境問題は矛盾することもあります。両方を一体として解決できる人材を育成します。

②新しいイノベーションを推進する力

技術を利用する人々や暮らす環境にフォーカス。社会との対話、さまざまな分野との共創を通して、成果を社会に還元する技術を身につけます。

文化情報工学 3つの学問領域が協働する新しい学び



①データサイエンスを応用して新しい文化や価値を創り出す力

データサイエンス・人文学・工学を協働させた学びを通じて、「分野を横断する視点」と「応用力」を育成します。豊かな文化に囲まれた社会の実現に貢献できます。

②分析の先にある「問い」と実行する力

データサイエンスは、「分析して終わり」の学問ではありません。「社会や人間の営みの中で、技術をどう生かすか？」まで考え、実行していく力を身につけます。

Ocha Summer Program

お茶の水女子大学では2011年度より、海外協定校の学生を募って日本に招き、本学学生とともに「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」集中講義「Ocha Summer Program」を開講しています。また、留学生が日本語を学ぶコースも併設しています。

このプログラムでは、授業のほかに、日本文化を深く知るためのカルチャーイベントや留学生との交流会などが行われます。海外の学生との国際交流の場として、毎年多くの学生が授業を履修し、運営委員のボランティアとしても参加しています。

Subject Based Course

「Subject Based Course」では、本学の教員たちがオムニバス形式で授業を実施します！ 2024年度は“Gender, Globalization and Diversity in Contemporary Japan”、“Natural Science: Basic Questions and Applications”、“Exploring Human Life and Environmental Sciences: Integrating Perspectives on Health, Society, and Technology”の3つのサブコースを開講しました。各トピックの専門教員から直接学ぶことができるため、さまざまな分野の知識や視点を一度に得ることができ、毎回新しい発見が待っています。また、留学生と一緒に学外へ半日フィールドトリップにも出かけ、教室の中だけでは得られない気づきや体験を通じて、さらなる学びを深めます。



Project Work Course

「Project Work Course」では、多様なバックグラウンドを持ったメンバーからなる少人数のグループに分かれ、グローバル課題に取り組みます。英語による対話重視のインタラクティブな授業形式で、学生同士が主体的に学びながら課題解決に向けて協力します。留学生来日前の7月初旬からオンラインによる授業や交流を行い、オンライン講義では、高齢化や人口減少等の日本社会の課題と、気候変動と食糧危機、移民問題等の世界的な課題を扱います。問題意識を共有しながら課題の解決策を議論し、最終日には、各グループがその成果をプレゼンテーションします。グループワークをとおしてチームビルディング・チームワークについて学ぶことで、リーダーシップ力の涵養も目指しています。



学びだけじゃない！思い出に残る国際交流イベント

サマープログラムでは、授業の合間にもワクワクがいっぱい！ 交流ゲームで盛り上がる歓迎会や送別会、日本の伝統に触れられる狂言ワークショップや香道教室など、魅力的なイベントが盛りだくさん。お茶大生にとっても、留学生と一緒に体験することで、普段気づかなかった日本文化の魅力を再発見できるチャンスです。新しい視点に出会い、心に残る体験がきっと待っています。



サマープログラム運営委員として、リーダーシップを育成！

プログラムでは、お茶大生がボランティアの運営委員 (SPSC: Summer Program Student Committee) としてイベントの企画や進行を担当しています。委員は、開講式や修了式、ツアーや文化体験の司会進行、さらには異文化交流を楽しみながら、チームワークやリーダーシップを育んでいます。活動内容には留学生とのパティ活動も含まれており、言語や文化を超えた深い絆が生まれることもあります。生涯の友人となるケースも多く、国際的なネットワークを築くチャンスが広がります。



2024年度参加者の皆さん



参加者・運営委員経験者の声

サマープログラムに参加した学生と、運営委員を務めた学生の声をお届けします！

2025年度運営委員の皆さん



サマープログラム授業履修者

長尾 璃子 さん

文教育学部 人間社会科学科グローバル文化学環 4年
2023年度Genderコース履修、2024年度Project Work履修



様々な学生と交流、議論する中で「友だちの〇〇がいる国」が増えていき、異なる背景や考え方だとしても「個」として向き合う姿勢が身に付きました。その経験が、日常のコミュニケーションや大学においても重要な支柱となり、留学や海外研修への自信にもつながりました。不安もあるかもしれませんが、その不安がどう変化していくかも学びです。国内にしながら多言語・多文化環境に飛び込めるチャンスをぜひ活用してください！

サマープログラム授業履修者

Nguyen, Yen-Phuong さん

Bergische Universitaet Wuppertal (交換留学生)
2024年度日本語コース履修



去年、私はサマプロに参加しました。たくさんの思い出と大切な経験ができて、とても感謝しています。すてきな人たちに会って、友達もできました。お茶大の学生たちはとても親切で、いろいろ手伝ってくれました。私は、いくつかのワークショップに参加して、狂言や香道について学びました。また、茶道部に一日だけ入って、お茶のマナーを勉強しながら、美味しい抹茶を飲みました。鎌倉にも行って、綺麗な浴衣を着ることができました。

サマープログラム運営委員

笹谷 碧 さん

生活科学部 食物栄養学科 4年
2025年度サマープログラム運営委員リーダー



1年生からSPSCに参加し、現在は代表を務めています。約3ヶ月の準備を経て、毎年楽しそうに過ごす留学生を見ると、頑張ってきたと心から思えます！ 言語を超えて留学生と友達になれることも醍醐味で、今でも参加した留学生と連絡を取っています。留学生が日本での生活を楽しめるよう準備・運営の中で、企画・運営力や臨機応変に動く力も身につきました。今年も、アットホームなSPSCと楽しいサマプロにしていきたいと思います！

サマープログラム運営委員

鈴木 彩加 さん

文教育学部 言語文化学科 3年
2025年度サマープログラム運営委員



1年生の時に、英語で留学生と関わりたいと思い運営委員会に入りました。今では留学生に楽しい思い出をつくってもらい、自身も思い切り楽しみたいと思い活動しています。世界のさまざまな場所から参加してくれる留学生と友達になり、文化の違いを知ることができました。今でも連絡を取り合う留学生が世界中にいます。期間中は留学生の影響で積極的になれるし、英語のスピーキング・リスニングも上達しました。

サマープログラム運営委員

森脇 玲 さん

生活科学部 食物栄養学科 3年
2025年度サマープログラム運営委員



パーティーチームとして、歓迎会と送別会の企画・運営を行いました。毎年送別会では泣いて別れを惜しんでくれる留学生も多く、そんな空間を自分達で作り上げたことに大きな達成感を感じます。SPSCに入った当初は英語に苦手意識もありましたが、留学生との交流を重ねて海外の方とも積極的に会話をできるようになり、今年の春休みは1人でヨーロッパを訪れました。SPSCで活動をしていなければこれほどの積極性は得られませんでした。

サマープログラム運営委員

小松原 千楓 さん

文教育学部 人間社会科学科 2年
2024年度サマープログラム運営委員



昨年度、セレモニーを担当するチームでリーダーとして活動し、特に人に頼ることの大切さを学びました。一人で仕事を抱え込んでいた私に声をかけてくれる仲間の存在が救いとなりました。活動を通して、相手にどう配慮できるのかを考えられるようになったと思います。SPSCでの活動は、私の人生においてかけがえのない経験です。

教員紹介

Interview

基幹研究院
人間科学系
准教授
辻谷 真知子
先生

Profile

東京大学教育学部を卒業後、同大学大学院に進学し博士(教育学)の学位を取得。その後、白梅学園大学にて日本学術振興会特別研究員(PD)を経て、2021年4月に本学助教として着任、2025年4月より現職。



Tsujitani Machiko

保育の場から

人間社会のあり方を考える

Q1 専門のご研究についてお話を聞かせてください。

専門分野は保育学、研究のアプローチとしては発達心理学や教育心理学です。「この花はとっちゃんいけなんだよ」「おちてる花はいいよ」「ねー」といった子どもたち(4歳頃)のやりとりに興味を惹かれ、今に至ります。乳幼児期の子どもたちが過ごす園(幼稚園、保育所、認定こども園等)で、いろいろな「規範」(きまり、ルール、習慣など)がどのようにやりとりされ、生まれたり変容したりするのかということが研究テーマです。先の例であれば、子どもが「いけない」と言った背景には、自分と花との関わり、他の人による花の扱い、誰かに言われたことなどがあるかもしれません。園の規範に着目していると、保育者の伝えたことが子ども同士で共有されたり、年月を経て伝承されたり、新たな意味を持ったりする過程も見えてきます。大きな危険を防ぐルールのような明確なものを除いては、保育者が伝えたい規範の内容もさまざまであり、一人ひとりの子どもへの捉え方、また保育者の保育観・子ども観や園で大切にされていることによって異なります。一つの規範に見えても多様な角度から捉えられますし、規範ではなくなることもあります。保育の場での研究を通して、

このような人間社会の規範を可視化してみたいと思っています。既にある規範を守って当たり前なのではなく、疑うことも含め、大人も子どもも自分の考えをお互いに表現しやすくなるような社会の実現をという野望もあります。

保育学には、いわゆる研究としての蓄積だけでなく、現場の実践で長年積み重ねられてきた経験知があり、それらが1つの研究論文などよりも大きな影響力を持つことが少なくありません。保育実践を研究する人は、実践と研究知見との両方から学びつつ、理論化したり捉え直したりしていきます。私自身もこれまで、大学と園の両方でさまざまな方から育てていただきました。時代の流れを受けながら、「今」の子どもたちや共に生きる保育者の方々と一緒に考えることと、数十年後の保育を考える長期的視野を持つこととの両方を大切にしています。

Q2 研究のおもしろさはどこにあるとお考えですか。

保育の場へ行くと、いつも世界が広がります。子どもへの見方だけでなく、周囲の植物や虫、石や落ち葉、建物の隅などが子どもの目を通していつもと違って見えてきます。研究をしながらそのようなことが常に体験でき

るのはとても贅沢なことです。それらの体験は自分の固定概念や価値観も揺さぶってくれ、常に「規範」を柔軟に捉えたいという思いにも繋がっています。面白さと同時に、難しさ、答えが永遠に出ないような感覚でもあります。

Q3 お茶大生に向けてメッセージをお願いします。

授業やゼミで感じるのですが、熱意の高さとともにお互いの話を真剣に聞く優しさが、学びあう魅力的な環境を生み出していると思います。ただ、時代の傾向として「タイパ」「マルチタスク」などの言葉があるように、一つのことに時間をかけすぎず効率よく課題をこなしていくような生活になっているかもしれません(自戒も込めて)。本学には乳幼児が過ごす3つの園があり、学内を歩いていると子どもたちによく出会えます。ときには同じくらの速度で歩いたり立ち止まったり寄り道したりしながら、五感を豊かにして景色や空気感、生き物の存在などを味わってみてはいかがでしょうか。

担当:谷口 幸代
基幹研究院人文科学系 教授

Q1 お茶大での生活はどのようなものでしたか。

やりたいことに何でもチャレンジしていた、忙しくも楽しい学生生活でした。私は現在、情報系の研究職に就いていますが、当時は将来の進路に関係なく、興味の惹かれたことに片っ端から挑戦していました。教職の授業を受けて教員免許を取得したり、未踏事業やハッカソンなどのIT系イベントに参加したり、ドイツの大学へ短期留学をしたり。このように多岐にわたる活動ができたのは、周りにアクティブな先輩方がいて経験談を聞きやすかったこと、親身に相談に乗り応援してくださった先生方がいらっしやったからこそでした。お茶大で周りの人々にも環境にも恵まれ、安心してさまざまなことに挑戦し続けられた、貴重な学生時代であったと思っています。もちろん大変なこともたくさんありましたが、困難なことを乗り越えていく中で培われたたおやかな力は、今の自分を支える大切な力になっていると実感しています。

Q2 お茶大での経験は現在どのように活かしていますか。

日々の仕事において、臨機応変かつ周りの

人を巻き込みながら対応すべき場面に多々遭遇しますが、その度に、お茶大での経験で培ったたおやかな力が活きていると実感します。現在、私はNTT研究所にてHCI(Human-Computer Interaction)分野の研究に従事しています。会社の方針によって為すべき研究テーマは数年ごとに変わるため、自らの専門性や経験を基盤にしつつ、会社に貢献できる新たな研究テーマを創り続けることが求められます。私は学生時代に、日常で得られるセンサデータを基に人や物を探す研究をしていましたが、入社直後は筋電など生体情報を解析し行動変容を促す研究に従事しました。その後、組織の方針が変わり、人の認知特性を分析しコミュニケーションを支援する研究がテーマとなりました。このように、専門分野であるHCIだけでなく、生体医工学や心理学など、複数分野を横断する多様な研究テーマに挑戦し続けることが求められるため、お茶大で培われた、どんなことにも前向きにチャレンジする力、専門家に敬意を表しつつも物怖じすることなく助けを求められる力に日々助けられていると実感しています。また、NTT研究所には数年ほど事業会社に出向する制度があり、私はNTTコミュニケーショ

ンズでSEとして働いていた時期がありました。研究とは全く異なる職種でしたが、情報科学科の授業で学んだ知識にとても助けられ、先生方の授業を思い出しつつ最新の技術知見を融合させながら職務を遂行していました。このように、お茶大での経験がすべて、日々を楽しく生きていく上での支えになっていると感じています。

Q3 お茶大へのメッセージをお願いします。

やりたいことに何でもチャレンジしてほしいです。お茶大は、色々なことに挑戦しやすい環境が整っている、とてもいい大学だと私は思っています。先生方はみな親身になって相談に乗ってください、具体的な解決策を提示してくださった上で、前向きに応援してくださいます。こんなに心理的安全性の高い空間は、社会ではなかなか得難いものだと思います。ぜひ学生生活をめいっぱい楽しみつつ今しかできないことに挑戦してみてください。

担当:五十嵐 悠紀
基幹研究院自然科学系 准教授

卒業生紹介

Interview

NTT研究所
笹川 真奈
さん

Profile

2015年3月理学部情報科学科卒業。2017年3月人間文化創成科学研究科理学専攻情報科学コース修了。2017年4月NTT研究所に入社。同年、社会人博士を開始。2022年9月人間文化創成科学研究科理学専攻情報科学領域修了。博士(理学)



お茶大で培ったたおやかな力で

日々楽しく生きています

Sasagawa Mana

附属学校園からの お知らせ

子どもと、保護者と、ともにつくる公開研究会



附属小学校では、研究成果の発信の場として、毎年2月に2日間の公開研究会を行っています。
コロナ禍でのオンライン開催を経て、一昨年は5年ぶりの対面開催。昨年度も対面で開催し、
延べ約2,000名の教育関係者にご参会いただきました。附属小学校の公開研究会の模様をご紹介します。



お茶の水女子大学の附属学校としての使命の一つとして「教育の理論と実際に関する研究や実証」があります。附属小学校でも、目の前の子どもたちと向き合い、その時々今日の課題に照らしながら研究を進めてきました。2008年度からは、民主主義社会を支える市民を育てることを念頭に置いたシティズンシップ教育に取り組み、他者とのかわりの中で違いを受け止め、尊重する市民への成長を願って教育活動を行ってきました。

年度毎の研究成果を世に問う場として、毎年2月に教育実際指導研究会（公開研究会）を行っています。教育実際指導研究会と銘打っているのは、実際の授業提案を観ていただき、その授業での子どもたちの姿から教育の在り方を考えていきたいという理念があるからです。

公開研究会では、2日間とも午前中に二枠の授業公開があります。各枠で10本前後、2日間で全学年全学級が授業公開をし、全ての教科等の授業を観ることが出来ます。授業後には、

授業に関する話し合いの時間があり、授業者との対話を通して、学びを深めることが出来ます。午後は、1日目は課題別部会、2日目は教科等部会があります。全体発表（VTR）の後、各部会提案を行い、参会者や共同研究者・コメンテーターとともに研究協議をしていきます。また、1日目は、分科会後に鑑音堂で講演会を行います。昨年度は、失敗学を提唱されている畑村洋太郎先生にご講演いただきました。

コロナ禍後、5年ぶりに対面開催することが出来た一昨年度の公開研究会では、一人ひとりの思いや願いが尊重され、興味・関心や疑問を出発点に主体的に学びを進める「てがつく創造活動」を中核に据えた教育の在り方を提案しました。この研究は、文部科学省研究開発学校の指定を受けたものでもあります。

少しずつ従来の形の公開が出来るようになり、昨年度の第87回の公開研究会は、2月14日（金）・15日（土）の2日間で、全国からおよそ

2,000名の方にご参会いただきました。実際の生の授業を観ていただき、子どもの姿をもとに今後の教育の在り方についてさまざまな立場からご意見を頂戴しました。どの会場も熱気にあふれ、議論が盛り上がっていました。

会の運営は、100名以上の保護者の協力に支えられています。参会者アンケートには、保護者の方々の温かく細やかなおもてなしへの感謝の声が、毎年多数寄せられます。子どもたちにとっても新たな自分に会える場。

たくさんの参会者に囲まれた中で授業が行われることは、子どもたちにも新鮮でモチベーションとなり、普段の授業とは違う一面も見られます。

今年度も第88回の公開研究会を2026年2月20日（金）・21日（土）の2日間行います。教育に関心のある大学生・大学院生、教育関係者が参加できます。ぜひ、附属小学校へ足をお運びいただき、子どもたちの姿から、これからの教育と一緒に考えていきましょう。詳細は12月頃に附属小学校HPにてご案内いたします。



附属学校園での出来事 2025年 4月～6月

Jun. 6

May 5

Apr. 4

附属高等学校

- 入学式・始業式・着任式・対面式
- 新入生オリエンテーション
- 3年修学旅行（沖縄方面）
- 春季健康診断・避難訓練（地震）
- 自治会選挙・歓迎会
- PTA総会・教育後援会総会・保護者会（全学年）

附属中学校

- 入学式・始業式・新任式
- 新入生オリエンテーション
- 情報モラル講習会・歓迎会
- 全国学力・学習状況調査
- PTA総会・教育後援会総会・全体保護者会
- 避難訓練（避難経路確認）

附属小学校

- 離着任式・始業式・入学式
- 給食開始・保護者会（各学年）
- 全国学力・学習状況調査
- 避難訓練・新入生を迎える会
- 健康診断・校外学習（1・2年）・授業参観
- 郊外園サツマイモ植え（3年）
- 保護者会総会・かがみ会総会・教育後援会総会

附属幼稚園

- 進級式・入園式・保護者会
- 親子で遊ぶ日（4歳児）
- 誕生会（4月生まれ）・PTA総会

いずみナーサリ

- 避難訓練（図上訓練・地震）・野菜苗植え

こども園

- うれしいはじまりの日・始業式
- みんなのはじまりの日（入園式）・乳児健康診断
- 避難訓練・安全指導・遠足（5歳児）
- 誕生会・こどもの日・全園児保護者会

附属高等学校

- 1年諏訪合宿・3年学力テスト
- 台北一女来校

附属中学校

- 健康診断・生徒総会
- 保護者対象情報モラル講習会・学年別保護者会
- 三味線ワークショップ
- 教育実習1期（6月10日）

附属小学校

- 交通安全教室（1年）・避難訓練
- 教育実習（6月）・校外学習（3年）
- 運動会

附属幼稚園

- こどもの日の集い・健康診断
- 全学年引き取り避難訓練
- 親子遠足（新宿御苑）・誕生会（5月生まれ）
- 親子で遊ぶ日（3歳児）
- 教育実習開始（前期2週間）

いずみナーサリ

- 避難訓練（地震）・在園児定期健康診断
 - 保護者会・災害用伝言ダイヤル試行
- ### こども園
- 個人面談・遠足（4・5歳児）・誕生会
 - 全園児健康診断・避難訓練・安全指導
 - 給食試食会

附属高等学校

- 体育祭・面談週間・学校説明会
- 自治会総会・3年ケンブリッジ英検
- 公開教育研究会・ノーベル賞受賞者講演会
- 期末考査・教育実習・3年学力テスト

附属中学校

- 林間大会・グローバルキャンプ（1年）
- 休園学校（2年）・修学旅行（3年）
- 期末テスト・避難訓練・教職員救急法研修会

附属小学校

- 子育て講演会（1年）・校外学習（1・4・5年）
 - 引き取り訓練・郊外園ジャガイモ掘り（1・6年）
 - 水泳学習（9月）・保護者会（6年）・土曜参観
- ### 附属幼稚園
- 誕生会（6月生まれ）
 - ジャガイモ掘り（5歳児親子）
 - 親子で遊ぶ日（5歳児）

いずみナーサリ

- 避難訓練（火災・救急要請）・個人面談
- 教育後援会総会

こども園

- 個人面談・誕生会
- 全園児歯科健診・バス遠足（4・5歳児）
- 避難訓練・安全指導・乳児健康診断



Ochadai GAZETTE

vol.280
Summer
2025

発行日 / 2025年7月11日

発行 / 国立大学法人お茶の水女子大学

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

ご意見・ご感想はこちらまで

広報・ダイバーシティ推進課

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <https://www.ocha.ac.jp/>



本誌、およびバックナンバーは、
本学ホームページに掲載されています。
どうぞご覧ください。



お茶の水女子大学は
2025年に創立150周年を迎えます



お茶の水女子大学
Ochanomizu University